

事業名		英語教育推進					事業コード	1197001	計画コード	4-1-1				
款	10	教育費			項	01	教育総務費				目	03	教育振興費	
所属名(部局・課)		教育委員会				学校教育課				担当名	指導担当			
施策		4-1	確かな学力と自立する力の育成											

1. 事業の概要

事業の対象	和光市立各小・中学校児童生徒
意図・目的	一人ひとりが積極的に英語に親しむ態度を育むとともに、外国文化に対する関心を高める。
活動概要	外国語指導助手を市内各小・中学校に配置し、外国語指導助手と担任教師のチームティーチングによる外国語活動・英語授業の実施、スピーチコンテストの指導、国際理解教育に関する学校行事等への参加を行う。また、令和3年度までは小学校6年生も実施していたが、令和4年度は中学校2年生を対象に外国語技能検定GTECを実施する。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度	
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	
活動実績	①	英語等の授業回数	回	3,150	3,150	3,150	3,150	3,150	3,150	
	②	授業を受けた児童生徒数	人	6,186	6,256	6,286	6,000	6,000	6,000	
	③	英語指導助手人数	人	10	10	10	10	10	10	
	④									
	⑤									
費用	事業費	予算額		千円	54,004	57,194	54,957		54,885	不用額
		決算額		千円	52,386	55,870	52,681		執行率	
		財源内訳	一般財源		千円	52,386	55,870			52,681
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	0	0			0
成果の説明	小学校では外国語活動の授業助手として、外国語指導助手を配置し、担任と協力しながら基本的な英語の表現に慣れ親しみ、コミュニケーション活動を中心とした質の高い外国語の授業を行うことができた。 また、定期的にALTミーティングを行い、情報交換や授業研究を行うことで、全ての小学校でほぼ同じ授業スタイルや授業プランを実施することができた。また、新学習指導要領の完全実施に向け、チームティーチングによる授業の流れについて、ALTと共に研修を実施することができた。 中学校では、英語の授業助手として、各校に1名ずつALTを配置した。英語の授業では、ICTを活用し、よりわかりやすく身につく活動を行っている。また、自国の文化を紹介した掲示物を作成したり、学校行事に積極的に参加することで、日々の教育活動の中でALTに接する機会が多くなり、児童・生徒が自然に英語に触れ、英語に対する興味・関心を高められる環境が整うようになった。									

3. 事業の課題

課題	他市から異動してきた教員や新採用、外国語指導が未経験の教員に、和光市の外国語授業のスタイルやALTとのチームティーチングの方法を共有していくことが課題である。
----	---

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	学校訪問での授業観察や指導を通して上記の教職員の指導力向上を目指したり、月1回のALTミーティングを通してALTの指導力のさらなる向上を目指したりすることで、児童・生徒の英語力向上を目指していきたい。

事業名		児童教育活動					事業コード	1204010	計画コード	4-1-2				
款	10	教育費			項	02	小学校費				目	02	教育振興費	
所属名(部局・課)		教育委員会				学校教育課				担当名	指導担当			
施策		4-1	確かな学力と自立する力の育成											

1. 事業の概要

事業の対象	和光市立小学校児童
意図・目的	教員の指導力の向上を図る。また子どもたちに確かな学力を身につけさせる。
活動概要	学習指導要領に基づく教育課程を確実に実施する。(①分かる授業、楽しく学べる授業づくりの実施、②学力向上支援教員の配置による個に応じた指導の充実)

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度		
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値		
活動実績	①	学習教室参加人数(小学校)	人	2,107	3,974	3,150	3,860	3,960	5,310		
	②	教員研修会参加人数(小中合計)	人	498	1,029	1,934	940	940	1,934		
	③										
	④										
	⑤										
費用	事業費	予算額		千円	77,036	74,118	93,478		81,496	不用額	
		決算額		千円	70,782	65,907	78,099			15,379	
		財源内訳	一般財源		千円	70,121	65,534		77,742		執行率
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	661	373		357		83.5%
成果の説明	①令和4年度は学力向上支援教員を中心として、主にクラブや委員会の裏で中学年を中心に個別指導の充実を図っている。 また低学年では休み時間等の個別指導の充実を図ることできめ細やかな支援は行うことができた。 夏休みには補習教室を開き、中学年から高学年の児童を中心とした個別指導の充実を図った。										
	②教員研修会についても新型コロナウイルス感染症の影響でWEBによる研修という形が多かったが、令和3年度に比べると集合型の研修も増えてきた。次年度以降も学校現場の負担軽減を考えながら、内容の充実を図るようにしていく。										

3. 事業の課題

課題	学習教室の実施や個別支援の充実等を通して、より多くの児童の学習内容の定着が図れるように、教務主任会や学力向上支援教員研修会等で情報の交換、共有をしていく。
----	---

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	今後も児童の確かな学力を育むためにも教職員の指導力向上を図り、効果的な教室運営を推進していく必要がある。

事業名		生徒教育活動					事業コード	1210010	計画コード	4-1-3			
款	10	教育費			項	03	中学校費			目	02	教育振興費	
所属名(部局・課)		教育委員会				学校教育課				担当名	指導担当		
施策		4-1	確かな学力と自立する力の育成										

1. 事業の概要

事業の対象	和光市立中学校生徒
意図・目的	教員の指導力の向上を図る。また子どもたちに確かな学力を身につけさせる。
活動概要	学習指導要領に基づく教育課程を確実に実施する。(①分かる授業、楽しく学べる授業づくりの実施、②学力向上支援教員の配置による個に応じた指導の充実)

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度	
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	
活動実績	①	学習教室参加人数(中学校)	人	737	855	1,050	1,060	1,060	2,130	
	②	教員研修会参加人数(小中合計)	人	498	1,029	1,934	940	940	1,934	
	③									
	④									
	⑤									
費用	事業費	予算額		千円	28,565	21,962	22,441		23,445	不用額
		決算額		千円	20,132	16,954	14,735		執行率	7,706
		財源内訳	一般財源		千円	16,109	16,954			14,735
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	4,023	0			0
成果の説明	①令和4年度は学力向上支援教員を中心として、休み時間に個別指導の充実を図っている。 学力向上教員の担当する教科の特性に合わせ、きめ細かい授業の充実を図るだけでなく、担任を持つ教員の負担軽減も行っている。									
	②教員研修会についても新型コロナウイルス感染症の影響でWEBによる研修という形が多かったが、令和3年度に比べると集合型の研修も増えてきた。次年度以降も学校現場の負担軽減を考えながら、内容の充実を図るようにしていく。									

3. 事業の課題

課題	学習教室の実施や個別支援の充実等を通して、より多くの生徒の学習内容の定着が図れるように、教務主任会や学力向上支援教員研修会等で情報の交換、共有をしていく。
----	---

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	今後も生徒の確かな学力を育むためにも教職員の指導力向上を図り、効果的な教室運営を推進していく必要がある。

事業名		学校衛生管理					事業コード	1199001	計画コード	4-2-1			
款	10	教育費			項	01	教育総務費			目	03	教育振興費	
所属名(部局・課)		教育委員会				学校教育課				担当名	指導担当		
施策		4-2	豊かな心と健やかな体の育成										

1. 事業の概要

事業の対象	和光市立小・中学校教職員
意図・目的	教職員の健康の維持・管理を図る。
活動概要	教職員定期健康診断等を実施する。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度		
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値		
活動実績	①	教職員結核検診受診者数	人	155	166	190	201	201	201		
	②	教職員定期健康診断受診者数	人	170	172	192	215	215	215		
	③										
	④										
	⑤										
費用	事業費	予算額		千円	21,557	20,486	18,175		14,530	不用額	
		決算額		千円	19,850	18,331	16,346			1,829	
		財源内訳	一般財源		千円	7,676	13,531		12,747		執行率
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	12,174	4,800		3,599		89.9%
成果の説明	教職員の健康を守る上で定期的な健康診断は欠かせない。健康診断の実施により、病気の早期発見、早期治療につながっている。										

3. 事業の課題

課題	健康診断の実施により、病気の早期発見、早期治療につながっているので、今後も継続して実施していく。
----	--

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	健康診断は法令に位置付けられたものであり、教職員の健康維持管理は教育活動の成果に直結することから、引き続き事業の充実を図る必要がある。

事業名		校外活動支援(小学校)					事業コード	1204004	計画コード	4-2-2				
款	10	教育費			項	02	小学校費				目	02	教育振興費	
所属名(部局・課)		教育委員会				学校教育課				担当名	学務担当			
施策		4-2	豊かな心と健やかな体の育成											

1. 事業の概要

事業の対象	林間学校に参加する和光市立小学校児童
意図・目的	林間学校に参加する児童の保護者負担を軽減する。
活動概要	児童一人当たり5,000円を補助する。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度	
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	
活動実績	①	補助件数	件	0	716	704	736	700	765	
	②									
	③									
	④									
	⑤									
費用	事業費	予算額		千円	0	3,750	3,520		3,750	不用額
		決算額		千円	0	3,580	3,520		0	
		財源内訳	一般財源		千円	0	3,580		3,520	執行率
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	0	0		0	100.0%
成果の説明	林間学校に参加した全ての児童の保護者負担を軽減することができ、林間学校を円滑に実施することができた。 新型コロナウイルス感染症対策等を検討し、期間を2泊3日から1泊2日に縮小し実施した。当初は夏季休業日に実施予定していたが、実施直前に新型コロナウイルスが全国で急激に拡大したことを鑑み2学期に延期した学校があった。									

3. 事業の課題

課題	山野・林間の生活を通して自然に親しみ、情操を高め、心身の健全な発達を図るとともに、規律ある集団生活によって望ましい生活態度を身につけさせることを目的とする林間学校を今後も実施するためにも、事業を継続していく必要がある。
----	---

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	今後も本事業を推進し、自然体験や社会体験を通して豊かな人間性を育んでいきたい。

事業名		児童衛生管理						事業コード	1205001	計画コード	4-2-3				
款	10	教育費				項	02	小学校費				目	02	教育振興費	
所属名(部局・課)		教育委員会				学校教育課				担当名	指導担当				
施策		4-2	豊かな心と健やかな体の育成												

1. 事業の概要

事業の対象	和光市立小学校児童
意図・目的	児童の健康の維持・増進を図る。
活動概要	和光市立小学校児童健康診断を実施する。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度		
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値		
活動実績	①	定期健康診断受診者数	人	4,393	4,450	4,365	4,520	4,480	4,394		
	②	定期健康診断受診児童歯科治癒率	%	85.9	84.4	88.1	90.0	90.0	90.0		
	③										
	④										
	⑤										
費用	事業費	予算額		千円	18,776	19,303	19,273		20,042	不用額	
		決算額		千円	17,940	18,206	17,948			1,325	
		財源内訳	一般財源		千円	17,890	18,206		17,948		執行率
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	50	0		0		93.1%
成果の説明	児童の健康を守る上で定期的な健康診断は欠かせない。健康診断の実施により、病気の早期発見、早期治療につながっている。										

3. 事業の課題

課題	歯科治癒率が昨年度より上昇した。目標値達成のため、今後も治癒勧告を継続し、治療について働きかけていく必要がある。
----	--

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	健康診断は法令に位置付けられたものであり、定期健康診断の円滑な実施により、児童の健康づくりを推進する必要がある。

事業名		校外活動支援(中学校)					事業コード	1210004	計画コード	4-2-4			
款	10	教育費			項	03	中学校費			目	02	教育振興費	
所属名(部局・課)		教育委員会				学校教育課				担当名	学務担当		
施策		4-2	豊かな心と健やかな体の育成										

1. 事業の概要

事業の対象	林間学校に参加する和光市立中学校生徒
意図・目的	林間学校に参加する生徒の保護者負担を軽減する。
活動概要	生徒一人当たり5,000円を補助する。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度	
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	
活動実績	①	補助件数	件	0	593	531	563	645	637	
	②									
	③									
	④									
	⑤									
費用	事業費	予算額		千円	0	3,300	2,950		3,300	不用額
		決算額		千円	0	2,965	2,655		295	
		財源内訳	一般財源		千円	0	2,965		2,655	執行率
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	0	0		0	90.0%
成果の説明	林間学校に参加した全ての生徒の保護者負担を軽減することができ、林間学校を円滑に実施することができた。									

3. 事業の課題

課題	冬季における山野・林間の生活を通して雪山に親しみ、情操を高め、スキーの技能を養い、心身の健全な発達を図るとともに、規律ある集団生活によって望ましい生活態度を身につけさせることを目的とする林間学校を今後も実施するためにも、事業を継続していく必要がある。
----	---

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	今後も本事業を推進し、自然体験や社会体験を通して豊かな人間性を育んでいきたい。

事業名		生徒衛生管理						事業コード	1211001	計画コード	4-2-5				
款	10	教育費				項	03	中学校費				目	02	教育振興費	
所属名(部局・課)		教育委員会				学校教育課				担当名	指導担当				
施策		4-2	豊かな心と健やかな体の育成												

1. 事業の概要

事業の対象	和光市立中学校生徒
意図・目的	生徒の健康の維持・増進を図る。
活動概要	和光市立中学校生徒健康診断を実施する。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度		
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値		
活動実績	①	定期健康診断受診者数	人	1,730	1,741	1,756	1,880	1,930	2,007		
	②	定期健康診断受診生徒歯科治癒率	%	81.8	89.2	84.7	95.0	95.0	95.0		
	③										
	④										
	⑤										
費用	事業費	予算額		千円	8,261	8,505	8,586		8,910	不用額	
		決算額		千円	7,421	7,295	7,524			1,062	
		財源内訳	一般財源		千円	7,366	7,295		7,524		執行率
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	55	0		0		87.6%
成果の説明	生徒の健康を守る上で定期的な健康診断は欠かせない。健康診断の実施により、病気の早期発見、早期治療につながっている。										

3. 事業の課題

課題	歯科治癒率が昨年度より下降している。目標値達成のため、今後も治癒勧告を継続し、治療について働きかけていく必要がある。
----	--

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	健康診断は法令に位置付けられたものであり、定期健康診断の円滑な実施により、生徒の健康づくりを推進する必要がある。

事業名		学校給食業務					事業コード	1238001	計画コード	4-2-6			
款	10	教育費			項	05	保健体育費			目	03	学校給食費	
所属名(部局・課)		教育委員会				学校教育課				担当名	指導担当		
施策		4-2	豊かな心と健やかな体の育成										

1. 事業の概要

事業の対象	和光市立小・中学校児童生徒
意図・目的	児童生徒自らが生涯にわたり健康で心豊かな食生活を送ることができる能力を身につける。
活動概要	児童生徒の健康の増進とともに、児童生徒の成長に必要な栄養を満たし、日本古来の主食である米飯や地場産食材を取り入れた安全で衛生的な給食を提供する。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度	
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	
活動実績	①	米飯給食の実施回数	回/週	3.5	3.5	3.6	3.6	3.6	3.6	
	②	地場産野菜の使用率	%	17.9	17.1	14.8	25.0	25.0	25.0	
	③									
	④									
	⑤									
費用	事業費	予算額		千円	416,022	412,723	492,231		451,247	不用額
		決算額		千円	414,030	412,586	490,935		1,296	
		財源内訳	一般財源		千円	398,529	412,586		424,250	執行率
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	15,501	0		66,685	99.7%
成果の説明	地場産野菜の使用率は、天候・害虫等の影響を受けて、目標を下回り、令和3年度と比較して2.3%使用率が下がった。 校内放送等を通じて郷土食や地元食材への理解を深める取組を行うとともに、日本人の主食である米飯給食を中心として、栄養バランスの良い献立を工夫し、学校給食の充実を図っている。									

3. 事業の課題

課題	米飯の実施回数増加においては、献立の多様性や栄養価の維持、残食率低下との両立が課題となっている。また、新鮮な地元農産物を学校給食に取り入れることは食育上有意義な事業であるが、生産量が虫害や天候に左右されることが多く、年々都市化により本市の農地面積が減少している中で使用率を維持していくことは困難な状況となっている。
----	---

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☐ このまま継続 ☒ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	上記経緯から地場産野菜の供給が年々難しくなっているが、安全安心で栄養価を満たした給食を提供することは、当然のことながら継続して行う必要があるため、さらに食育の充実を目標に各指標を見直ししながら進めていくことが重要であると考えます。

事業名		給食安全衛生管理					事業コード	1238002	計画コード	4-2-7			
款	10	教育費			項	05	保健体育費			目	03	学校給食費	
所属名(部局・課)		教育委員会				学校教育課				担当名	指導担当		
施策		4-2	豊かな心と健やかな体の育成										

1. 事業の概要

事業の対象	市内小・中学校児童生徒
意図・目的	安全で衛生的な学校給食を提供する環境づくりを行う。
活動概要	鼠、害虫等の生息実態調査を毎月実施することにより発生時の初期対策ができ、被害の拡大を防止する。また、ダクトやグリストラップ等を定期的に清掃することで施設設備を清潔に保つ。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度	
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	
活動実績	①	害虫による被害回数	回	0	0	0	0	0	0	
	②									
	③									
	④									
	⑤									
費用	事業費	予算額		千円	15,061	14,037	14,558		15,097	不用額
		決算額		千円	13,702	14,016	14,115		執行率	443
		財源内訳	一般財源		千円	13,702	14,016			14,115
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	0	0			0
成果の説明	①給食施設ネズミ・害虫防除業務委託 8月を除く毎月全校実施 ②ダクト・フード等清掃業務委託 夏季または冬季休業中に全校実施 ③グリストラップ清掃及び油脂汚泥収集運搬処理業務委託 年5回全校実施 ④給食廃棄物収集運搬処理業務委託 全校で給食実施日に実施 (収集した残渣・残食を収集し、堆肥化され、各校学校ファーム等で堆肥を利用) ⑤腸内細菌培養検査 県費栄養士及び学校教育課栄養士が毎月2回実施。 (10～3月はノロウイルス検査も月1回実施)									

3. 事業の課題

課題	稼働メンテナンス及び環境衛生のため、空調機の定期的な清掃点検の実施が必要である。
----	--

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	令和4年度から、全校において給食廃棄物収集運搬業務委託を実施している。委託業者に施設を清潔に保つことは、安全安心で衛生的な学校給食を提供するために必要不可欠である。事故を未然に防ぐために今後も事業を継続していく必要がある。

事業名		教育委員会運営					事業コード	1193001	計画コード	4-3-1				
款	10	教育費			項	01	教育総務費				目	01	教育委員会費	
所属名(部局・課)		教育委員会				教育総務課				担当名		教育総務担当		
施策		4-3	質の高い学校教育のための教育基盤の整備・充実											

1. 事業の概要

事業の対象	和光市教育委員会
意図・目的	創造的で人間性豊かな人材の育成のための地方教育行政の推進
活動概要	地方教育行政の組織及び運営に関する法律による実施(教育長及び教育委員をもって組織する合議制の執行機関の運営)

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度		
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値		
活動実績	①	教育委員会の開催	回数	12	12	12	12	12	12		
	②										
	③										
	④										
	⑤										
費用	事業費	予算額		千円	2,415	2,407	2,411		2,405	不用額	
		決算額		千円	2,253	2,197	2,169			242	
		財源内訳	一般財源		千円	2,253	2,197		2,169		執行率
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	0	0		0		90.0%
成果の説明	毎月1回、定例教育委員会を開催し、教育行政にかかる諸課題等について審議・検討が行われた。(個人情報保護等が必要な一部を事案を除き原則公開)また、透明性や情報開示の観点から、教育委員会の会議の内容については、和光市ホームページに掲載するほか、図書館、行政資料コーナー、議会資料室に置くことにより広く市民等に公開した。										

3. 事業の課題

課題	定例教育委員会では教育に関する活発な議論が求められる。
----	-----------------------------

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)

事業名		交通指導員					事業コード	1201002	計画コード	4-3-2			
款	10	教育費			項	02	小学校費			目	01	学校管理費	
所属名(部局・課)		教育委員会				教育総務課				担当名	教育総務担当		
施策		4-3	質の高い学校教育のための教育基盤の整備・充実										

1. 事業の概要

事業の対象	市内小学校児童
意図・目的	通学児童の登下校時の安全を図る。
活動概要	児童の登下校時の安全を図るため交通指導員を配置する。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度		
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値		
活動実績	①	配置箇所における事故件数	件	0	0	0	0	0	0		
	②										
	③										
	④										
	⑤										
費用	事業費	予算額		千円	30,082	29,371	30,699		32,571	不用額	
		決算額		千円	27,052	28,621	29,976			723	
		財源内訳	一般財源		千円	27,052	28,621		29,976		執行率
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	0	0		0		97.6%
成果の説明	公益社団法人朝霞地区シルバー人材センターに委託し、39地点に毎日欠かさずに交通指導員を配置することが可能となっている。そのほか、保護者や地域の方の協力も得ている。										

3. 事業の課題

課題	特に時間帯など特殊であることもあり、交通指導員を引き受けてくれる人材が不足している状況である。今後は保護者や地域の方の協力がさらに重要となる。
----	---

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)

事業名		教職員研究・研修					事業コード	1196002	計画コード	4-3-3			
款	10	教育費			項	01	教育総務費			目	03	教育振興費	
所属名(部局・課)		教育委員会				学校教育課				担当名	指導担当		
施策		4-3	質の高い学校教育のための教育基盤の整備・充実										

1. 事業の概要

事業の対象	和光市立小・中学校教職員
意図・目的	教職員の指導の資質の向上を図る。
活動概要	教職員の指導力向上のための学校訪問、研修会への講師派遣等の実施。 研究成果を教育活動へ生かすための研究紀要作成、職員研修充実のための研究費支援、市教育研究会の研修充実に向けた補助金活用、学校経営の適正化による教育の向上と教職員の資質向上のための校長会補助金活用を行う。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度	
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	
活動実績	①	教員研修会参加人数	人	498	1,029	1,934	940	940	1,934	
	②	校内研修参加人数	人	328	341	350	330	330	350	
	③	外部指導者派遣回数	回	39	53	44	46	46	44	
	④									
	⑤									
費用	事業費	予算額		千円	422	422	422		422	不用額
		決算額		千円	278	377	374		執行率	48
		財源内訳	一般財源		千円	278	377			374
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	0	0			0
成果の説明	市内全ての小・中学校で学校訪問を行った。全体会や分科会で指導者、教員で協議を行い教職員の指導力の向上を図った。									
	令和4年度の市教研は一斉授業研修会も集合型とはせず、ICTを活用した研修会となった。ICTに触れるいい機会になったので、教員のICT研修にもなった。									
	研究委嘱では、市内12校全てが委嘱を受け、6校で研究発表を行った。それぞれの学校課題を解決するべく研修を重ねた。また研修会や主任会等が活発に動き出しており、教員が主体的に学ぶ機会が大変増えてきていた。									

3. 事業の課題

課題	1人1台のタブレット端末をはじめとしたICT機器の活用や主体的・対話的で主体的な学びの授業改善を図るうえで、校内研修や市教研等教職員の研修をさらに充実していく必要がある。
----	---

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	主体的・対話的で深い学びのための授業改善を図るうえで教職員の研修会は必要である。さらに一人一人の個別最適な学びを保証するためにも、教職員は研修会等に参加し、ICT機器活用能力をさらに向上させる必要性がある。

事業名		小・中学校研究推進						事業コード		1196003		計画コード		4-3-4			
款	10	教育費				項	01	教育総務費				目	03	教育振興費			
所属名(部局・課)		教育委員会				学校教育課				担当名		指導担当					
施策		4-3		質の高い学校教育のための教育基盤の整備・充実													

1. 事業の概要

事業の対象	和光市立小・中学校教職員
意図・目的	教職員の指導力と資質の向上を図る。
活動概要	各学校の研修会への講師派遣等の実施、研究成果を教育活動へ生かすための研究紀要作成、職員研修充実のための研究費支援を行う。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度	
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	
活動実績	①	講師派遣実施回数	人	16	21	15	24	24	15	
	②	研究紀要作成校数	校	12	12	12	12	12	12	
	③	研修実施回数(1校あたり)	回	10	10	10	10	10	10	
	④									
	⑤									
費用	事業費	予算額		千円	660	606	606		606	不用額
		決算額		千円	548	548	479		執行率	127
		財源内訳	一般財源		千円	548	548			479
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	0	0			0
成果の説明	小・中学校における校内研修への講師派遣の実施については、各校のニーズに合った講師を招き研修の充実を図ることができた。研究成果を教育活動へ生かすための研究紀要作成、教職員研修充実のための研究費支援、職員研修充実のための研究費支援などにより、教職員の資質向上を図ることができた。									

3. 事業の課題

課題	教職員の指導力向上を図るため、講師の派遣回数の少ない学校に、実態にあった講師を派遣できるように引き続き働きかけていく。
----	---

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	児童生徒の学力向上のためには教職員の指導技術の向上が必要不可欠である。今後も各校の実態に応じた研究を充実させ、教職員の指導力向上を図っていく。

事業名		コンピュータ教育推進(小学校)					事業コード	1204002	計画コード	4-3-5				
款	10	教育費			項	02	小学校費				目	02	教育振興費	
所属名(部局・課)		教育委員会				学校教育課					担当名	指導担当		
施策		4-3	質の高い学校教育のための教育基盤の整備・充実											

1. 事業の概要

事業の対象	和光市立小学校児童及び教職員
意図・目的	社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難になる時代を迎えるにあたり、Society5.0に対応することのできる情報活用能力の基礎を育成する。
活動概要	ICTプロジェクトチームで情報活用に向けての協議した内容をもとに、ICT活用推進委員会において授業改善の提案を行い、管理職や情報推進担当や各学校等における研修会(①情報機器を活用した学習活動の充実、②ICTを活用した双方向での学び、③学習の保障、④情報リテラシーやモラル・マナーの習得、⑤コンピュータやネットワークを活用した校務の効率化等を中心とした研修)を開催し、授業支援ソフトの活用や動画配信等を含めた教職員のスキルや指導力を高め、児童の情報活用能力を育成する学習指導の充実を図る。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度	
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	
活動実績	①	研修参加者数	人	236	299	421	290	290	290	
	②	学習活動参加児童数	人	4,439	4,487	4,403	4,500	4,500	4,500	
	③									
	④									
	⑤									
費用	事業費	予算額		千円	74,091	225,037	247,042		254,240	不用額
		決算額		千円	73,373	205,771	242,875		執行率	
		財源内訳	一般財源		千円	72,110	61,231			89,879
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	1,263	144,540			152,996
成果の説明	1人1台端末の導入から2年目を迎えた令和4年度は、市教委主催の情報教育推進研修会を2回実施したほか、夏には業者主催の研修会を行った。また、校務支援システムが新しくなったこともあり、それに係る研修を7回実施した。さらに、市内9校中4校がICTをテーマにした校内研修を行い、学校間での自主的な情報交換も行われた。その他に、国や他市の先進的な取組、授業における具体的な活用方法等について、学校訪問やWEBツール等を活用して情報提供を行った。プログラミング教育の推進を図るため、マイクロビットを各校に貸与し、本市におけるプログラミング教育を推進した。									

3. 事業の課題

課題	教職員のICT活用能力の向上やICTを活用した個別最適・協働的な学びの実現に向け、ICT機器を積極的に活用できるよう、より一層の研修や情報交換の機会が必要である。また、端末の使用環境を改善するために、インターネット速度の増強や、端末内に保存されているソフトウェアの見直しやデータを整理をすることで、メモリの軽量化を図る必要がある。
----	---

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	GIGAスクール3年目にあたる令和5年度は、児童及び教職員がICT機器をより効果的に活用できるよう、現在挙げられているソフト面・ハード面双方の課題を学校や業者と連携を図りながら一つ一つ解決し、充実を図る。

事業名		小学校図書教育推進					事業コード	1204003	計画コード	4-3-6			
款	10	教育費			項	02	小学校費			目	02	教育振興費	
所属名(部局・課)		教育委員会				学校教育課				担当名	指導担当		
施策		4-3	質の高い学校教育のための教育基盤の整備・充実										

1. 事業の概要

事業の対象	和光市立小学校在籍児童
意図・目的	豊かな心を育成するとともに、自主的な学習能力を身につけさせる。
活動概要	学校図書館が児童にとって、心のオアシスとなる読書センターとしての機能と、調べ学習を中心とした学習情報センターとしての機能が果たせるように、教育計画に基づく蔵書の整備とレファレンス活動の充実を図り、活発な活動を行う。今年度は、年間70日の勤務日数としたことから、業務内容を精査し、図書館資料を活用した効果的な学習の推進を図る。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度		
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値		
活動実績	①	蔵書数	冊	102,519	102,035	101,474	104,000	104,000	104,000		
	②	図書購入数	冊	1,055	779	1,107	600	600	600		
	③	蔵書達成率	%	113	113	110	117	115	115		
	④										
	⑤										
費用	事業費	予算額		千円	2,900	6,158	6,833		7,722	不用額	
		決算額		千円	2,891	5,730	6,532			301	
		財源内訳	一般財源		千円	2,891	5,730		6,532		執行率
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	0	0		0		95.6%
成果の説明	和光市図書館と連携・協力することにより、図書館アドバイザー研修会を年間3回実施することができた。和光市図書館職員と図書主任との合同研修会では、ビブリオに精通する講師を招き、研修会を行った。今までは、図書館とアドバイザーのみの研修会となっていたが、今年度は、図書主任も合同で研修会が行えた。選書や読書推進についても各校のアドバイザーから様々な提案があり、その他の成果として円滑に学校図書館の業務を推進することができた。										

3. 事業の課題

課題	ICTの活用の推進による読書離れとならないように、実際書籍を手に取り、心を育てられるように図書館利用を推進していく。蔵書については、古い書籍を閉架して図書館における本の精選を図る。下新倉小は図書館が併設されているが、図書室の蔵書は他校に比べるとまだ少ない。
----	--

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	児童の心の醸成や確かな学力の育成をするため、引き続き学校図書館教育の充実を図る必要がある。

事業名		コンピュータ教育推進(中学校)					事業コード	1210002	計画コード	4-3-7		
款	10	教育費			項	03	中学校費		目	02	教育振興費	
所属名(部局・課)		教育委員会				学校教育課				担当名	指導担当	
施策		4-3	質の高い学校教育のための教育基盤の整備・充実									

1. 事業の概要

事業の対象	和光市立中学校生徒及び教職員
意図・目的	社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難になる時代を迎えるにあたり、Society5.0に対応することのできる情報活用能力の基礎を育成する。
活動概要	ICTプロジェクトチームで情報活用に向けての協議した内容をもとに、ICT活用推進委員会において授業改善の提案を行い、管理職や情報推進担当や各学校等における研修会(①情報機器を活用した学習活動の充実、②ICTを活用した双方向での学び、③学習の保障、④情報リテラシーやモラル・マナーの習得、⑤コンピュータやネットワークを活用した校務の効率化等を中心とした研修)を開催し、授業支援ソフトの活用や動画配信等を含めた教職員のスキルや指導力を高め、児童の情報活用能力を育成する学習指導の充実を図る。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度		
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値		
活動実績	①	研修参加者数	人	111	107	124	120	120	120		
	②	学習活動参加生徒数	人	1,746	1,769	1,838	1,800	1,800	1,800		
	③										
	④										
	⑤										
費用	事業費	予算額		千円	315,327	57,021	53,151		49,166	不用額	
		決算額		千円	313,643	46,845	50,159			2,992	
		財源内訳	一般財源		千円	36,437	43,644			40,787	執行率
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	277,206	3,201			9,372	94.4%
成果の説明	1人1台端末の導入から2年目を迎えた令和4年度は、市教委主催の情報教育推進研修会を2回実施したほか、夏には業者主催の研修会を行った。また、校務支援システムが新しくなったこともあり、それに係る研修を7回実施した。その他に、国や他市の先進的な取組、授業における具体的な活用方法等について、学校訪問やWEBツール等を活用して情報提供を行った。										

3. 事業の課題

課題	教職員のICT活用能力の向上やICTを活用した個別最適・協働的な学びの実現に向け、ICT機器を積極的に活用できるよう、より一層の研修や情報交換の機会が必要である。また、端末の使用環境を改善するために、インターネット速度の増強や、端末内に保存されているソフトウェアの見直しやデータを整理をすることで、メモリの軽量化を図る必要がある。
----	---

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	GIGAスクール3年目にあたる令和5年度は、生徒及び教職員がICT機器をより効果的に活用できるよう、現在挙がっているソフト面・ハード面双方の課題を学校や業者と連携を図りながら一つ一つ解決し、充実を図る。

事業名		中学校図書教育推進					事業コード	1210003	計画コード	4-3-8		
款	10	教育費			項	03	中学校費		目	02	教育振興費	
所属名(部局・課)		教育委員会				学校教育課				担当名	指導担当	
施策		4-3	質の高い学校教育のための教育基盤の整備・充実									

1. 事業の概要

事業の対象	和光市立中学校在籍生徒
意図・目的	豊かな心を育成するとともに、自主的な学習能力を身につけさせる。
活動概要	学校図書館が児童にとって、心のオアシスとなる読書センターとしての機能と、調べ学習を中心とした学習情報センターとしての機能が果たせるように、教育計画に基づく蔵書の整備とレファレンス活動の充実を図り、活発な活動を行う。今年度は、年間70日の勤務日数としたことから、業務内容を精査し、図書館資料を活用した効果的な学習の推進を図る。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度	
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	
活動実績	①	蔵書数	冊	39,117	39,501	39,893	40,600	40,600	40,600	
	②	図書購入数	冊	592	345	478	600	600	600	
	③	蔵書達成率	%	98	95	98	105	105	105	
	④									
	⑤									
費用	事業費	予算額		千円	1,350	2,245	2,583		2,958	不用額
		決算額		千円	1,340	2,050	2,432		151	
		財源内訳	一般財源		千円	1,340	2,050		2,432	執行率
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	0	0		0	94.2%
成果の説明	和光市図書館と連携・協力することにより、図書館アドバイザー研修会を年間3回実施することができた。和光市図書館職員と図書主任との合同研修会では、「調べ学習」に精通する講師を招き、研修会を行った。昨年度より、図書館とアドバイザー、図書主任との合同で研修会を実施している。選書や読書推進についても各校のアドバイザーから様々な提案があり、その他の成果として円滑に学校図書館の業務を推進することができた。									

3. 事業の課題

課題	ICTの活用の推進による読書離れとならないように、実際書籍を手に取り、心を育てられるように図書館利用を推進していく。蔵書については、古い書籍を閉架して図書館における本の精選を図る。
----	--

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	生徒の心の醸成や確かな学力の育成をするため、引き続き学校図書館教育の充実を図る必要がある。

事業名		教育支援センター・特別支援・適応支援					事業コード	1198001	計画コード	4-4-1			
款	10	教育費			項	01	教育総務費			目	03	教育振興費	
所属名(部局・課)		教育委員会				学校教育課				担当名	指導担当		
施策		4-4	質の高い学校教育のための教育基盤の整備・充実										

1. 事業の概要

事業の対象	児童生徒及び保護者、教職員、学校等
意図・目的	①いじめの解決や不登校児童生徒の学校復帰を達成する。②障害等に応じた適切な教育環境をつくる。③さわやか相談員、教育相談員、教員の資質向上を図る。
活動概要	①電話や面接、訪問等による教育相談、就学相談、発達相談を行う。 ②発達検査、学校・施設訪問、面接などから適切なアセスメントを行い、一人ひとりの支援方法を明確にする。 ③教職員(教育相談員も含む)を対象にした研修会を実施し、教職員の資質向上を図る。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度	
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	
活動実績	①	中学校不登校者割合	%	1.9	3.6	4.9	3.0	3.0	2.5	
	②	相談件数	件	1,417	1,787	2,184	2,000	2,100	2,100	
	③	適応指導教室児童生徒の学校復帰率	%	100	57	83	100	100	100	
	④									
	⑤									
費用	事業費	予算額		千円	115,718	118,424	120,914		121,222	不用額
		決算額		千円	94,385	102,346	97,018		執行率	
		財源内訳	一般財源		千円	91,385	99,246			93,967
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	3,000	3,100			3,051
成果の説明	① 教育支援センターに2名の臨床心理士を配置し、月曜日から金曜日まで同じ臨床心理士が相談業務に当たっている。各小学校には、教育相談員か発達支援相談員が常駐し、中学校では、教育相談員とさわやか相談員が勤務している。また、中学校は週に1回又は2週に1回程度スクールカウンセラーが訪問することで、教育相談業務が計画的、意図的に実施されてきている。									
	② 適応指導教室における生活指導、体験活動及び教科指導の充実を図り、適正就学率や学校復帰率に向上が見られた。各小・中学校の相談室の教育相談員、発達支援相談員、さわやか相談員の研修や連携が定期的に行われ、心理アセスメントや専門家の判断による相談活動が継続的に実施されている。									
	③ 教育支援センターでは、発達検査の実施やその結果を踏まえて、児童の課題や特性を的確に捉えて、学校や学級担任、保護者との連携を図り、日々の教育活動へ生かしている。									
	④ 平成29年度よりスクールソーシャルワーカーを配置しており、保護者への支援を通し家庭の機能を回復し、子供の課題を解決することを目的として業務を行っている。昨年度はスクールソーシャルワーカーが学校へ54回、家庭へ11回訪問し、家庭の課題解決に向けて話し合う場を設定し、具体的な改善策や方策について共に考えた。									

3. 事業の課題

課題	教育支援センターへの相談件数は、2,184件と昨年度より多くの相談が寄せられるようになった。不登校、就学相談など、様々な相談内容があり、多くの課題が絡み合っていると考えられる。そのため、引き続き、教育支援センターが中心的な役割を担い学校と連携して組織的な指導や支援をしていく必要がある。
----	---

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	小・中学校における相談活動についても充実を図っているが、昨年度より教育支援センターへの相談件数は増加した。心理アセスメントの結果を踏まえた継続的な相談が定着し、保護者や児童、教職員の悩みに対して、教育支援センター、教育相談室が期を逃さず対応している。引き続き事業を継続していきたい。

事業名		特別支援学級新設					事業コード	1198002	計画コード	4-4-2			
款	10	教育費			項	01	教育総務費			目	03	教育振興費	
所属名(部局・課)		教育委員会				学校教育課				担当名	指導担当		
施策		4-4	質の高い学校教育のための教育基盤の整備・充実										

1. 事業の概要

事業の対象	幼児、児童生徒及び保護者、教職員、学校等
意図・目的	①児童、生徒の特別な教育的ニーズに対応した教育を実施する。②幼児、児童、生徒を持つ保護者の教育相談を実施する。③特別な教育的ニーズのある児童、生徒のアセスメントを実施すると共に、学校等に対し、具体的な支援方法の提案を行う。
活動概要	①通常の学級、特別支援学級、特別支援学校等の教育機関、医療機関、福祉機関、教育支援センター等の専門機関との連携を図り、児童、生徒の特別な教育的ニーズに対応した専門性の高い教育を実施する。②特別な教育的ニーズのある子どもを持つ保護者の教育相談を実施し、不安の解消を図る。③幼児、児童、生徒の発達や理解及び表現等について、アセスメントを行い、学校・家庭における支援方法を提示する。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度	
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	
活動実績	①	年間授業時数	時間	950	980	980	1,010	1,010	1,010	
	②	特別支援学級設置校連絡会参加	回	2	3	9	9	9	9	
	③									
	④									
	⑤									
費用	事業費	予算額		千円	458	30	60		60	不用額
		決算額		千円	437	28	59		1	
		財源内訳	一般財源		千円	437	28		59	執行率
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	0	0		0	98.3%
成果の説明	・児童一人ひとりの課題に合わせて支援を行うことにより、自信を持てるようになった。 ・児童の安心できる居場所ができた。 ・児童が住む近くの学校にあることで、登校の不安を解消することができた。 ・児童同士では、なかなかコミュニケーションがとれずにストレスに感じていた部分も、担任が個別に話を聞いたり、仲立ちすることにより良好な関係を築くことができた。									

3. 事業の課題

課題	コロナ禍より、特別支援学級の児童生徒のための行事が実施できるようになり、連絡会の実施もコロナ以前に戻った。引き続き教育支援センター・特別支援学級・適応指導教室へと支援を行っていく。
----	--

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	特別な教育的ニーズに対応した教育を必要とした児童、生徒は年々増加し、保護者のニーズも多様化している。学校等に対し、具体的な支援方法の提案を行い、専門性の高い教育を実施するよう務めている。引き続き事業を継続していきたい。

事業名		教育扶助(小学校)					事業コード	1206001	計画コード	4-4-3				
款	10	教育費			項	02	小学校費				目	02	教育振興費	
所属名(部局・課)		教育委員会				学校教育課					担当名	学務担当		
施策		4-4	質の高い学校教育のための教育基盤の整備・充実											

1. 事業の概要

事業の対象	要保護及び準要保護基準該当世帯児童
意図・目的	教育の機会の均等を図る。
活動概要	該当児童の学校教育における教育費(学用品費・学校給食費・校外活動費・医療費・オンライン学習通信費等)の援助を行う。経済的に就学困難な児童の保護者からの申請に基づき、主に所得等により審査し認定する。認定者には教育費を援助する。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度		
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値		
活動実績	①	被援助者数(準要保護)	件	242	239	210	247	220	220		
	②	対象率(被援助者数/児童数)(準要保護)	%	5.5	5.5	4.8	5.7	5.0	5.0		
	③										
	④										
	⑤										
費用	事業費	予算額		千円	24,577	30,973	31,894		31,980	不用額	
		決算額		千円	14,971	19,288	17,975			13,919	
		財源内訳	一般財源		千円	14,422	18,649			17,301	執行率
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	549	639			674	56.4%
成果の説明	要保護・準要保護の児童に対して就学援助費を支給し、就学を支援するとともに特別支援教育就学奨励費の支給を行った。										
	(1) 要保護・準要保護就学援助費実績 (単位:人)										
	学用品費・通学用品費		210	医療費		0					
	校外活動費		147	新入学児童学用品費		15					
	修学旅行費		41	学校給食費		209					
	林間学校費		31	新入学児童学用品費(差額支給)		5					
	新入学生徒学用品費(入学前支給)		11	オンライン学習通信費		208					
	(2) 特別支援教育就学奨励費実績 (単位:人)										
	学用品費・通学用品費		38	新入学児童学用品費		7					
	校外活動費		31	学校給食費		42					
	修学旅行費		9	林間学校費		6					
	通学費		3	オンライン学習通信費		5					

3. 事業の課題

課題	困窮世帯に支援が行き届くよう、制度について周知を図ることが必要である。
----	-------------------------------------

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	教育の機会均等に資するために、引き続き必要な就学援助を行っていく。

事業名		教育扶助(中学校)					事業コード	1212001	計画コード	4-4-4		
款	10	教育費			項	03	中学校費		目	02	教育振興費	
所属名(部局・課)		教育委員会				学校教育課				担当名	学務担当	
施策		4-4	質の高い学校教育のための教育基盤の整備・充実									

1. 事業の概要

事業の対象	要保護及び準要保護基準該当世帯生徒
意図・目的	教育の機会の均等を図る。
活動概要	該当生徒の学校教育における教育費(学用品費・学校給食費・校外活動費・医療費・オンライン学習通信費等)の援助を行う。経済的に就学困難な生徒の保護者からの申請に基づき、主に所得等により審査し認定する。認定者には教育費を援助する。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度	
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	
活動実績	①	被援助者数(準要保護)	件	141	149	148	151	152	152	
	②	対象率(被援助者数/児童数)(準要保護)	%	8.1	8.3	8.0	8.4	8.2	8.2	
	③									
	④									
	⑤									
費用	事業費	予算額		千円	19,547	27,013	28,271		28,627	不用額
		決算額		千円	12,832	18,198	19,842		執行率	8,429
		財源内訳	一般財源		千円	12,339	17,610			19,290
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	493	588			552
成果の説明	要保護・準要保護の生徒に対して就学援助費を支給し、就学を支援するとともに特別支援教育就学奨励費の支給を行った。									
	(1) 要保護・準要保護就学援助費実績 (単位:人)									
	学用品費・通学用品費		148	医療費		0				
	校外活動費		83	新入学生徒学用品費		18				
	修学旅行費		47	学校給食費		148				
	林間学校費		36	生徒会費		79				
	新入学生徒学用品費(入学前支給)		30	新入学児童学用品費(差額支給)		0				
	オンライン学習通信費		148							
	(2) 特別支援教育就学奨励費実績 (単位:人)									
	学用品費・通学用品費		20	新入学生徒学用品費		4				
	校外活動費		11	学校給食費		23				
	修学旅行費		7	通学費		2				
	林間学校費		5	職場実習交通費		0				
	オンライン学習通信費		1							

3. 事業の課題

課題	困窮世帯に支援が行き届くよう、制度について周知を図ることが必要である。
----	-------------------------------------

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	教育の機会均等に資するために、引き続き必要な就学援助を行っていく。

事業名		幼保小連携推進					事業コード	1199010	計画コード	4-5-1			
款	10	教育費			項	01	教育総務費			目	03	教育振興費	
所属名(部局・課)		教育委員会				学校教育課				担当名	指導担当		
施策		4-5	家庭や地域社会との連携・協働による教育の推進										

1. 事業の概要

事業の対象	和光市立各小学校児童と和光市各保育所・幼稚園園児ならびに教職員と保護者
意図・目的	幼稚園、保育園、小学校が互いに連携し、幼児教育と小学校教育を円滑に接続させ、子どもたちの健やかな成長を図る。
活動概要	幼稚園児・保育所園児及び小学校児童の交流と教職員間の交流を行う。また、保育課程・教育課程の編成、指導方法についての交流等を行う。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度		
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値		
活動実績	①	交流会参加者数	人	35	58	71	40	50	75		
	②	教職員間交流参加者数	人	0	0	71	110	110	110		
	③	交流会実施回数	回	1	1	2	5	5	5		
	④										
	⑤										
費用	事業費	予算額		千円	5	5	5		5	不用額	
		決算額		千円	0	0	0			5	
		財源内訳	一般財源		千円	0	0			0	執行率
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	0	0			0	0.0%
成果の説明	和光市幼・保・小連携協議会を定期的に開催し、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図ってきた。参加者は1回の協議会に40名程の方が参加し幼稚園・保育園・小学校で連携を深めようとした。 また、昨年度作成した和光市版のアプローチカリキュラムやスタートプログラムを各施設、各小学校で実際に活用し、幼児期の学びから小学校教育への移行がより円滑に行われるようにした。										

3. 事業の課題

課題	コロナによる行動制限もだいぶ緩和されてきたので、幼稚園・保育園・小学校の担当者による協議会を2回開催することができた。幼稚園や保育園の園児と小学校の児童が交流する機会を復活させたい。
----	---

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	小1プロブレム等、幼保小連携の重要性は変わらず高いものがある。また、若く経験の少ない教職員が増えてきているため、これまで積み上げてきた和光市版のアプローチカリキュラムやスタートプログラムを各施設、各小学校で改めて周知・活用することも重要である。幼保小の円滑な接続のための事業を継続させていきたい。

事業名		地域連携推進					事業コード	1199020	計画コード	4-5-2			
款	10	教育費			項	01	教育総務費			目	03	教育振興費	
所属名(部局・課)		教育委員会				学校教育課				担当名	指導担当		
施策		4-5	家庭や地域社会との連携・協働による教育の推進										

1. 事業の概要

事業の対象	和光市立小・中学校児童生徒及び各学校にかかわる家庭・地域
意図・目的	①学校の特色を生かし、地域の信頼を得る(学校運営協議会)。②学校の活性化や家庭・地域の教育力の向上を目指すとともに、学校・家庭・地域社会の一体化を図る(学校応援団)。
活動概要	①保護者や地域住民などの意見を幅広く聴取し、多面的な視野から学校運営を見直す。②学校応援団により、学習活動の支援、読み聞かせ、安心・安全確保、学校の環境整備を図る。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度	
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	
活動実績	①	学校応援団への協力者数	人	3,241	3,742	4,105	4,000	4,200	4,500	
	②	連携活動実施数(1校あたり)	回	114	101	130	150	150	150	
	③	みどりの学校ファーム設置率	%	100	100	100	100	100	100	
	④									
	⑤									
費用	事業費	予算額		千円	1,718	2,190	2,196		2,196	不用額
		決算額		千円	1,339	1,577	1,694		執行率	
		財源内訳	一般財源		千円	1,178	1,162			1,225
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	161	415			469
成果の説明	・新型コロナウイルス感染症の拡大により、例年どおりの事業が行えないものもあったが、地域や保護者の方々に感染防止対策を講じながら活動していただいた。 ・各校のコミュニティ・スクールディレクターによるコミュニティ・スクール推進協議会を開催し、情報共有をした。各校の取組を自校の活動に生かすことができた。また、コロナ禍における活動の工夫について協議することができた。 ・拡大学校運営協議会を開催し、教職員と保護者、地域が集まり学校の課題や地域の実情等について協議することができた。									

3. 事業の課題

課題	・地域学校協働活動を推進するための人材が不足していること。
----	-------------------------------

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	・今後も本事業を継続し、「地域とともにある学校」づくりをさらに活性化していきたい。

事業名		小学校管理運営						事業コード		1201001		計画コード		4-6-1			
款	10	教育費				項	02	小学校費				目	01	学校管理費			
所属名(部局・課)		教育委員会					教育総務課					担当名		教育施設担当			
施策		4-6		安全安心な学校施設の整備													

1. 事業の概要

事業の対象	市内小学校児童
意図・目的	校舎等学校施設の日常的な維持管理を図り、教育環境を整備する。
活動概要	学校生活が円滑に営まれるための修繕等施設管理を行う。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度		
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値		
活動実績	①	修繕件数	件	100	65	109	—	—	—		
	②	施設起因による事故	件	0	0	0	—	—	—		
	③										
	④										
	⑤										
費用	事業費	予算額		千円	231,495	216,699	281,351		257,477	不用額	
		決算額		千円	213,914	216,421	265,108			16,243	
		財源内訳	一般財源		千円	202,674	215,989		264,292		執行率
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	11,240	432		816		94.2%
成果の説明	児童が安心・安全に小学校生活が継続できるよう、各小学校からの報告(依頼)を受けて、速やかに現地調査を行い、緊急度を見極めて修繕を行った。また、早期に対応することにより、少ない費用で修繕を行うなど、事業費の増加を抑える対応を心掛けた。										

3. 事業の課題

課題	施設・設備の老朽化による修繕については、中長期的な計画と連動させて無駄のない執行をしていくことが今後も課題である。年々施設が老朽化していくに伴い、修繕費が増加傾向にある。
----	---

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	各学校と連携を図り、優先度を勘案し早急な修繕を図ることが重要である。施設の老朽化による修繕は、中長期的な計画と連動させて無駄のない執行に努める。

事業名		小学校施設整備					事業コード		1202003		計画コード		4-6-2		
款	10	教育費			項	02	小学校費			目	01	学校管理費			
所属名(部局・課)		教育委員会				教育総務課					担当名		教育施設担当		
施策		4-6		安全安心な学校施設の整備											

1. 事業の概要

事業の対象	市内小学校児童
意図・目的	教育施設の改修工事等を計画的に実施し、教育環境の整備を図る。
活動概要	学校施設の老朽化や環境改善のための施設整備を実施する。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度		
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値		
活動実績	①	工事件数	件	3	2	3	－	－	－		
	②										
	③										
	④										
	⑤										
費用	事業費	予算額		千円	64,970	38,187	514,678		1,451,316	不用額	
		決算額		千円	64,970	31,047	513,156			1,522	
		財源内訳	一般財源		千円	48,242	28,629		492,956		執行率
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	16,728	2,418		20,200		99.7%
成果の説明	広沢小学校トイレ改修工事を実施し、トイレを洋式化した。 第五小学校貯水槽更新工事を実施し、老朽化した設備の更新を行った。 第三小学校敷地を取得し、民地部分の借地の解消を図った。										
	【備考】 令和3年度予算147, 472, 091円を4年度に繰越明許し、4年度事業として139, 460, 989円を実施。 (小学校特別教室空調機設置工事を実施し、教育環境の改善を図った。また、第三小学校用地測量及び不動産鑑定業務を行った。)										

3. 事業の課題

課題	第2次和光市公共施設マネジメント実行計画により、「改築」「長寿命化工事」が令和9年度以降に先送りされることになったため、改築等が実施されるまでの間、安全安心に施設を運営できるよう改修工事が必要になる。
----	--

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☐ このまま継続 ☒ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	第2次和光市公共施設マネジメント実行計画を受け、個別施設計画の進め方の見直しを行い、計画的に施設保全を行なう。

事業名		中学校管理運営					事業コード	1207001	計画コード	4-6-3			
款	10	教育費			項	03	中学校費			目	01	学校管理費	
所属名(部局・課)		教育委員会				教育総務課				担当名	教育施設担当		
施策		4-6	安全安心な学校施設の整備										

1. 事業の概要

事業の対象	市内中学校生徒
意図・目的	校舎等学校施設の日常的な維持管理を図り、教育環境を整備する。
活動概要	学校生活が円滑に営まれるための修繕等施設管理を行う。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度		
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値		
活動実績	①	修繕件数	件	41	35	42	－	－	－		
	②	施設起因による事故	件	0	0	0	－	－	－		
	③										
	④										
	⑤										
費用	事業費	予算額		千円	72,112	68,865	89,375		84,867	不用額	
		決算額		千円	68,597	67,471	81,852			7,523	
		財源内訳	一般財源		千円	67,257	67,471		81,852		執行率
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	1,340	0		0		91.6%
成果の説明	生徒が安心・安全に中学校生活が継続できるよう、各中学校からの報告(依頼)を受けて、速やかに現地調査を行い、緊急度を見極めて修繕を行った。また、早期に対応することにより、少ない費用で修繕を行うなど、事業費の増加を抑える対応を心掛けた。										

3. 事業の課題

課題	施設・設備の老朽化による修繕については、中長期的な計画と連動させて無駄のない執行をしていくことが今後も課題である。年々施設が老朽化していくに伴い、修繕費が増加傾向にある。
----	---

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	各学校と連携を図り、優先度を勘案し早急な修繕を図ることが重要である。施設の老朽化による修繕は、中長期的な計画と連動させて無駄のない執行に努める。

事業名		中学校施設整備						事業コード		1208003		計画コード		4-6-4			
款	10	教育費				項	03	中学校費				目	01	学校管理費			
所属名(部局・課)		教育委員会					教育総務課					担当名		教育施設担当			
施策		4-6		安全安心な学校施設の整備													

1. 事業の概要

事業の対象	市内中学校生徒
意図・目的	教育施設の改修工事等を計画的に実施し、教育環境の整備を図る。
活動概要	学校施設の老朽化や環境改善のための施設整備を実施する。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度		
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値		
活動実績	①	工事件数	件	2	1	1	－	－	1		
	②										
	③										
	④										
	⑤										
費用	事業費	予算額		千円	63,046	1,570	10,725		368,256	不用額	
		決算額		千円	62,727	1,570	8,080			2,645	
		財源内訳	一般財源		千円	50,683	570		8,080		執行率
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	12,044	1,000		0		75.3%
成果の説明	第三中学校特別支援学級設置工事設計を行った。										
	【備考】 令和3年度予算161, 348, 000円を4年度に繰越明許し、4年度事業として143, 457, 600円を実施。 (中学校特別教室空調機設置工事を実施し、教育環境の改善を図った。)										

3. 事業の課題

課題	第2次和光市公共施設マネジメント実行計画により、「改築」「長寿命化工事」が令和9年度以降に先送りされることになったため、改築等が実施されるまでの間、安全安心に施設を運営できるよう改修工事が必要になる。
----	--

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☐ このまま継続 ☒ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	第2次和光市公共施設マネジメント実行計画を受け、個別施設計画の進め方の見直しを行い、計画的に施設保全を行なう。

事業名		学童クラブ管理運営					事業コード	1118010	計画コード	4-7-1	
款	03	民生費		項	02	児童福祉費		目	04	学童クラブ費	
所属名(部局・課)		子どもあんしん部			保育施設課				担当名	施設整備担当	
施策		4-7	児童や青少年の居場所づくり								

1. 事業の概要

事業の対象	保護者が就労等により常時留守にする児童及びその世帯
意図・目的	学童クラブの入所が必要な児童が、希望する学童クラブ等において適切な遊びや放課後の日常生活が出来るようにする。放課後児童健全育成事業として学童クラブ事業が円滑に運営できるようにする。
活動概要	就労等により保護者が自宅にいない児童に対して、放課後における適正な遊びと生活の場として学童クラブを提供する。

2. 事業の実績

活動実績		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度					
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値				
	①	学童クラブの数	箇所	14	15	15	15	15					
	②	受入児童数	人	887	935	897	1,004	1,050	1,051				
	③	待機児童数	人	5	1	2	0	0	0				
	④												
	⑤												
費用	事業費	予算額		千円	449,225	342,246	364,073		368,613	不用額			
		決算額		千円	399,009	316,900	340,843		執行率	23,230			
		財源内訳	一般財源		千円	115,405	99,191			111,611			
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	283,604	217,709			229,232	93.6%		
成果の説明	公設及び民設学童クラブにおいて、年度初めは多くの入所希望者があり、地域により待機児童が発生した。一方で、入所後、年度後半になると、児童の成長や日常生活の変化等により退所する児童が増加し、その人数は公設学童クラブ全体で年間150人程度となっている。												
	学童クラブ入所状況（入所児童：令和4年5月1日現在、待機児童：令和5年3月1日現在） （単位:人）												
		学童クラブ	定員	入所児童					待機児童				
				1年生	2年生	3年生	4年生以上	合計	1年生	2年生	3年生	4年生以上	合計
	公設	白子	70	21	21	9	1	52	0	0	0	0	0
		白子第二	65	15	22	9	10	56	0	0	0	0	0
		新倉	100	40	31	19	12	102	0	0	0	0	0
		中央	58	19	13	23	3	58	0	0	0	0	0
		諏訪	78	33	28	17	5	83	0	0	0	0	0
		南	70	22	14	17	7	60	0	0	0	0	0
		南地域	55	0	2	0	5	7	0	0	0	0	0
		さつきのこ	60	19	18	20	4	61	0	0	0	0	0
		広沢	80	22	12	9	21	64	0	0	0	0	0
		北原	80	23	18	9	9	59	0	0	0	0	0
	民設	さざんか	60	17	20	9	10	56	0	0	0	0	0
本町		105	23	34	23	8	88	0	0	0	0	0	
下新倉		90	35	36	21	2	94	0	0	2	0	2	
中央ひなた		22	18	9	2	1	30	0	0	0	0	0	
ひだまりの		40	5	6	11	5	27	0	0	0	0	0	
	合計	1033	312	284	198	103	897	0	0	2	0	2	
※備考 受入児童数は令和4年5月1日時点 待機児童数は令和5年3月1日時点													

3. 事業の課題

課題	令和4年度の公設学童クラブの待機児童は、令和5年3月1日時点で2名であった。今後は学童クラブとわこうこクラブ一体型の運営を活かし、学童クラブにとどまらず、児童の成長に沿った放課後の居場所を提供できるよう周知していく必要がある。
----	---

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	待機児童の発生状況等に対して必要な提供体制の整備・充実を図る。手法としては、学童クラブとわこうこクラブとの連携した一体的な事業展開により居場所を充実させると共に、より利用者の成長や生活に適した放課後の居場所の1つとして、事業周知を図る。

事業名		児童センター・児童館管理運営					事業コード	1121001	計画コード	4-7-2			
款	03	民生費			項	02	児童福祉費			目	05	児童センター費	
所属名(部局・課)		子どもあんしん部				保育施設課				担当名		施設整備担当	
施策		4-7	児童や青少年の居場所づくり										

1. 事業の概要

事業の対象	18歳未満の児童及びその保護者
意図・目的	児童が、異年齢間の児童、地域の大人たち、児童厚生員など、様々な世代との交流を通じて、健全に育成される環境を提供する。また、幼児と保護者が集える場所を提供することで、保護者の子育てに関する悩みやストレスを解消する。
活動概要	地域社会と連携しながら、体育レクリエーション・文化活動・教室・サークルなど、児童や親子で参加できる事業を実施する。また、施設利用者の安全性及び快適性向上のため、施設の整備を行う。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度	
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	
活動実績	①	開館日数(4館合計)	日	811	857	1,219	1,222	1,222	1,222	
	②	利用者数	人	46,956	118,712	258,017	166,956	212,516	265,208	
	③	開催行事延数	日	608	982	3,375	2,161	2,751	3,395	
	④	行事への参加者数	人	7,490	18,250	62,770	13,870	33,898	63,055	
	⑤									
費用	事業費	予算額		千円	116,267	109,576	134,085		131,189	不用額
		決算額		千円	115,207	107,810	131,738		2,347	
		財源内訳	一般財源		千円	114,212	106,810		129,784	執行率
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	995	1,000		1,954	98.2%
成果の説明	児童センター・館は、地域とのつながりを大切にし、幼児親子、児童、中高生が、生き生きと過ごすことができる場所として各種事業を実施し、子どもの居場所づくりだけでなく、地域の子育て拠点としても活用されている。 令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症感染対策を講じて、令和3年度よりも利用者数や開催行事数等が増加した。特に、総合児童センターが令和3年12月4日に開館したことにより、開催行事数及び参加者数について、大幅な増加が見られた。 市外プール利用者数については、令和3年12月4日に和光市民プールが開館したことに伴い、市外プール利用に係る助成制度を廃止したことから、令和4年度は助成を実施していない。 ・令和4年度児童センター(館)利用者数 合計258,017人 (内訳) 総合児童センター 176,896人 下新倉児童館 35,423人 新倉児童館 30,343人 南児童館 15,355人									

3. 事業の課題

課題	令和5年5月8日に新型コロナウイルスが5類感染症になったことを受け、感染症対策緩和と開催行事の内容等のバランスを考えながら、市内センター・館の更なる盛り上げを検討する必要がある。
----	---

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	総合児童センター及び各児童館が児童・子育て世帯の居場所としてより認知・定着するよう、今後の事業展開を検討・協議していく。

事業名		放課後子ども教室推進					事業コード	1216003	計画コード	4-7-3			
款	10	教育費			項	04	社会教育費			目	01	社会教育総務費	
所属名(部局・課)		教育委員会				生涯学習課				担当名	生涯学習担当		
施策		4-7	児童や青少年の居場所づくり										

1. 事業の概要

事業の対象	市内在住・在学の小学生
意図・目的	子どもたちが心豊かで健やかに育まれる環境づくりをする。
活動概要	安心安全な子どもの活動拠点(居場所)を設け、地域の方々の参画を得て子どもたちに勉強やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の機会を提供する。英語教室、工作教室、昔遊び教室、スポーツ教室など多様なプログラムを行っている。また、毎日開催の「わこうっこクラブ」を実施し、自主学習、自由遊びをとおして児童が主体的に過ごせる居場所として提供する。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度		
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値		
活動実績	①	教室開催数	回	1,152	2,080	2,155	2,230	2,230	2,230		
	②	登録児童数	人	1,321	1,620	2,190	2,200	2,200	2,200		
	③	参加児童数(のべ)	人	10,604	32,192	43,866	22,950	22,950	22,950		
	④	参加スタッフ数(のべ)	人	5,123	0	0	－	－	－		
	⑤	運営スタッフにおける和光市民の占める割合	%		75	79	75	75	75		
費用	事業費	予算額		千円	45,955	104,201	105,473		107,034	不用額	
		決算額		千円	40,461	86,462	103,493			1,980	
		財源内訳	一般財源		千円	25,176	57,169		75,888		執行率
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	15,285	29,293		27,605		98.1%
成果の説明	・令和3年度から全小学校で指定管理者制度を導入し、事業者による運営を開始。子ども教室はわこうっこクラブに包含され、「イベント型体験教室」として運営事業者により実施された。										
	○子ども教室・わこうっこクラブ教室開校数等										
		子ども教室	わこうっこクラブ								
	教室開校数	9校	9校								
	開催数	160	1,995								
	参加延べ児童	2,717	43,866								
生涯学習指導者が講師となった「SDGs教室」「英語教室」や、地域学校協働活動を通じ県立和光国際高校の生徒が講師となった「英語教室」など、他事業との連携による新規プログラムを追加した。											

3. 事業の課題

課題	学童クラブとわこうっこクラブの指定管理者が同一であることを活かした一体的な運営が推進できるよう、事業者と連携していく。
----	---

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☒ このまま継続 ☐ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	子どもの放課後の居場所づくりのため、子供が安心・安全に参加できる、環境づくりに努めていく。

事業名		青少年団体活動支援					事業コード		1235010		計画コード		4-7-4		
款	10	教育費			項	04	社会教育費			目	05	青少年育成費			
所属名(部局・課)		教育委員会				スポーツ青少年課					担当名		青少年担当		
施策		4-7		児童や青少年の居場所づくり											

1. 事業の概要

事業の対象	青少年、青少年育成和光市民会議、地域青少年を育てる会及び連合会、青少年相談員協議会
意図・目的	市民総ぐるみ、地域ぐるみで育成する。また、社会性や生きる力を養い、社会の責任ある一員として育成する。
活動概要	青少年関係団体の活動を支援し、青少年健全育成事業を推進する。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度	
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	
活動実績	①	青少年育成和光市民会議事業参加者数	人	100	100	172	800	800	800	
	②	和光市青少年相談員協議会事業参加者	人	0	0	6	25	25	25	
	③	地域青少年を育てる会団体数	団体	16	15	14	16	16	16	
	④									
	⑤									
費用	事業費	予算額		千円	3,622	3,203	3,087		2,975	不用額
		決算額		千円	2,841	2,572	2,500		執行率	587
		財源内訳	一般財源		千円	2,841	2,572			2,500
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	0	0			0
成果の説明	①令和4年度青少年育成和光市民会議事業参加実績値：172人 ・夏季スポーツ大会 令和4年8月20日(土) 参加人数:0人 中止 ・青少年健全育成作文表彰式・発表会 令和4年12月10日(土) 参加人数:約100人(コロナ対策で参集者を制限) ・たこあげ大会 令和5年1月14日(土) 参加人数:72人 ・わこうちかるた大会 令和5年2月4日(土) 参加人数:0人 中止 ②令和4年度和光市青少年相談員協議会事業参加実績 6人 ③育てる会連合会 ・役員会開催数 2回開催 平均参加率100%(書面開催にて実施) ・本部会開催数 2回開催 平均参加率 56% ・理事会開催数 2回開催 平均参加率100%(書面開催にて実施) ・事業部会開催数 2回開催 平均参加率100%(書面開催にて実施) ・広報部会開催数 3回開催 平均参加率100%(内1回は書面開催にて実施) ・親子おうちでクッキング 令和4年7月24日(日)、参加人数8世帯20名 ・スマイルパートナー 令和4年11月13日(日) 参加人数:0人 中止 ・ペタンク大会 令和4年11月13日(日) 参加人数:30人 ・親子たこづくり 令和4年12月3日(土) 参加人数:180名の親子 ④青少年育成推進員会 ・委員:34名 ・定例会回数:8回(内1回は書面開催にて実施)(講習会回数:4回) 平均参加率64% ・青少年を守る店の協力店151店 (訪問調査中止し、書面調査を実施) ⑤eネットキャラバン「インターネットの安心・安全な利用のための講座」 ・開催数0校 参加人数:0人 募集したが、応募がなかった									

3. 事業の課題

課題	青少年育成和光市民会議、育てる会連合会、青少年相談員などの団体役員の担い手が不足している。 地域青少年を育てる会団体数が減少している。
----	--

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☐ このまま継続 ☒ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	各団体の事業実施にあたり、団体活動に対して支援をしているが、各関係団体における課題を明確にし、対応を図っていくことが求められる。

事業名		青少年問題協議会運営					事業コード		1235020		計画コード		4-7-5		
款	10	教育費			項	04	社会教育費			目	05	青少年育成費			
所属名(部局・課)		教育委員会				スポーツ青少年課					担当名		青少年担当		
施策		4-7		児童や青少年の居場所づくり											

1. 事業の概要

事業の対象	青少年問題協議会委員、青少年問題研究会委員、作文審査委員
意図・目的	青少年を健全に育成する。
活動概要	管内における青少年に関する施策の連絡調整をする。また、和光市青少年問題協議会の開催・和光市青少年問題研究会の開催・作文審査委員会の開催・青少年問題研究会作成リーフレットの配布、作文・標語表彰式の開催を行う。

2. 事業の実績

		指標名	単位	2年度	3年度	4年度	4年度	5年度	6年度	
				実績値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	
活動実績	①	青少年問題協議会出席率	%	0	76	100	80	80	80	
	②	青少年問題研究会出席率	%	0	0	0	100	100	100	
	③	青少年問題協議会開催数	回	0	1	1	2	2	1	
	④	青少年問題研究会開催数	回	0	0	0	0	0	0	
	⑤	青少年問題協議会から具申された意見数	件	0	0	1	1	1	1	
費用	事業費	予算額		千円	242	242	130		130	不用額
		決算額		千円	49	77	51		79	
		財源内訳	一般財源		千円	49	77		51	執行率
			特定財源(国県補助、利用者負担等)		千円	0	0		0	39.2%
成果の説明	①令和4年度青少年問題協議会開催実績 令和4年12月26日(月)(書面開催) 議題「ヤングケアラー支援体制図の検討結果について」									
	②青少年健全育成作文募集									
	小学生	中学生	高校生	特別支援	合計	入選作文	※ 作文集300部作成			
	2,078	1,269	448	—	3,795	105				

3. 事業の課題

課題	社会情勢の変化に伴い、青少年の諸問題は年々増加傾向にあるが、その問題が複雑かつ広域のため、各課で協議会等が設立されていることから、青少年問題協議会の在り方について精査をしていくことが課題である。
----	---

4. 事業の総合評価

事業の方向性	☐ このまま継続 ☒ 改善して継続 ☐ 終了(廃止・休止)
	関係団体、関連部署と連携を図り、青少年問題協議会の在り方について協議していく。